

親子の川に対する意識の関連性

宮城県仙台二華高等学校	非会員	○顧 豪
宮城県仙台二華高等学校	非会員	東海林 幸史
東北大学	正会員	福本 潤也
東北大学	学生会員	橋本 泰行
宮城県仙台二華高等学校	非会員	米本 慶央

1. 目的

人々の意識の多くは幼年期の経験や保護者等の近い人の影響を強く受ける。本研究では川に対する愛着について親子の関連性から考えてみる。具体的には、宮城県仙台二華中学校・高等学校の生徒と父兄を対象とするアンケート調査を行う。調査項目は、幼年期の川との接触、川への関心、川に対する愛着、川に関する知識、河川清掃活動に対するボランティア意志などである。今回は、川への愛着と 관련된項目や、親子間での回答結果の相関関係を調べることで、川に対する愛着の形成要因を明らかにすることを試みる。

2. 調査方法

2015年11月下旬に、仙台二華中学校・高等学校の生徒の内、広瀬川流域に居住する生徒と親を対象に調査票を配布・回収した。回収数は294サンプル（親子ペア）である。川に対する愛着や意識の相関関係を調べるため、親子のペア毎に同じ回答用紙に記入させた。アンケートの主な質問項目は、生徒の幼少期および現在の川への訪問頻度、川への関心、川に対するイメージ、などである。

3. 分析結果

子供の川に対する愛着や関心の影響要因として、親からの影響と幼少期の体験の2種類を考える。それぞれの影響を把握するために行った分析結果を図1から図9に示す。

(1) 親子の川に対する意識の相関関係

図1は、広瀬川に対する関心の有無について「とても関心がある」から「関心がない」までの4択の

選択式で親子に尋ねた回答結果である。親の関心の程度で区分した親子ペアのグループ毎に、子供の回答結果の比率を表している。図より、川に対して「とても関心がある」と回答した親の子供ほど、川に対して「とても関心がある」や「ある程度関心がある」と回答する傾向が大きいことが分かる。

図2と図3は、川に対する親近感と愛着の有無について、図1と同様に作成したものである。図2より、川に対する親近感が高い親の子供ほど川に対する親近感が高く、関心と同様の回答結果となっている。一方、図3より、愛着の有無については、親子の間で明確な相関関係が見られないことが分かる。

(2) 川への訪問回数と川に対する意識の相関関係

図4は、子供の幼少期または小学期における川への訪問回数（「ほぼ毎日」から「ほとんど訪れない」までの9段階の回答結果を「1か月に1回以上」「1年に1回以上12回未満」「ほとんど訪れない」の3段階に集約したもの）と、現在の子供の川に対する関心（4段階の選択式）のクロス集計結果である。図5は幼少期または小学期の川への訪問回数と川に対する愛着のクロス集計結果、図6は幼少期または小学期の川への訪問回数と川に対する身近さのクロス集計結果である。一方、図7から図9は現在の川への訪問回数と川に対する関心・愛着・身近さのそれぞれのクロス集計結果である。

図4から図9より、以下の2点が分かる。第一に、現在の川への訪問回数が多い子供ほど、川に対する関心・愛着・身近さのいずれも大きいことである。第二に、幼少期または小学期における川への訪問回数が多い子供ほど、川に対する身近さが大きい傾向がある一方で、川に対する愛着については明白な傾

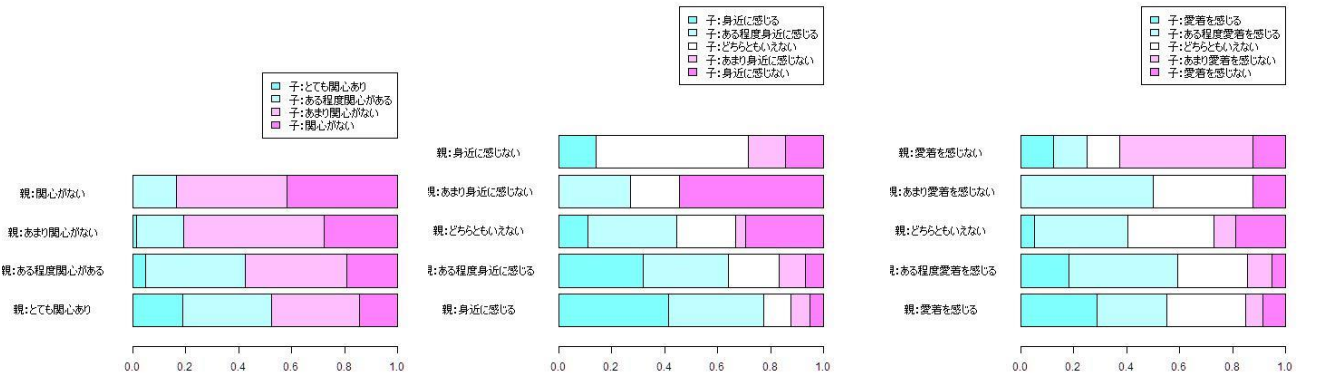


図-1 関心の親子間相関

図-2 親近感の親子間相関

図-3 愛着の親子間相関

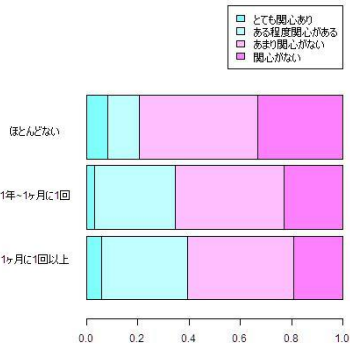


図-4 幼少期の訪問回数と関心

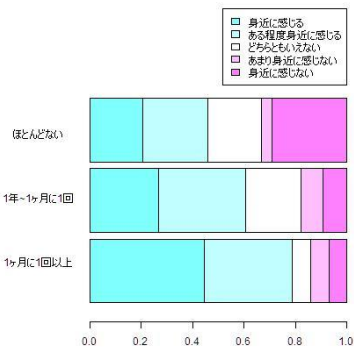


図-5 幼少期の訪問回数と親近感

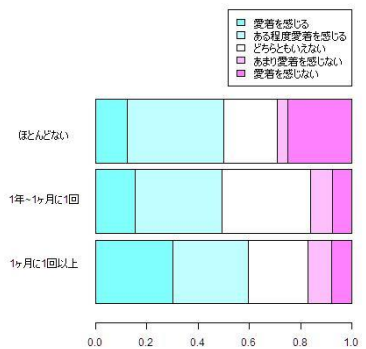


図-6 幼少期の訪問回数と愛着

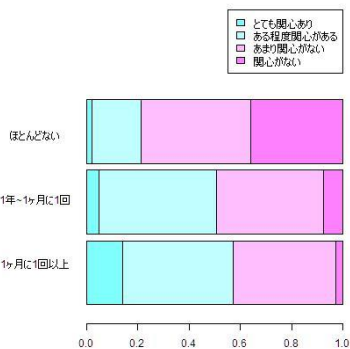


図-7 現在の訪問回数と関心

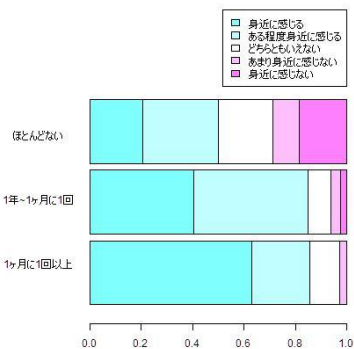


図-8 現在の訪問回数と親近感

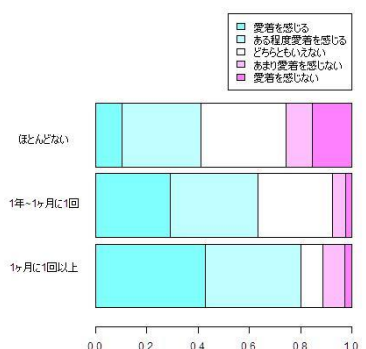


図-9 現在の訪問回数と愛着

向が見られないことである。

4. 考察

以上の分析結果より、子供の河川に対する関心や愛着について以下の2つの仮説を立てることができる。第一に、子供の川に対する親近感・関心・愛着は幼少期や現在の川への訪問という体験を通じて形成されたという仮説である。親子間で親近感や関心に相関が見られるものの、川への訪問という体験機会の共有を通じて相関が生まれたという仮説である。第二に、子供の川に対する親近感・関心・愛着は親の価値観の影響を受けており、その結果として親子

間で親近感や関心に相関が生まれたとする仮説である。川に対する意識が川への訪問という行動につながり、訪問回数と川に対する意識の相関関係を生み出したという仮説である。

以上の2つの仮説の妥当性を今回の分析結果から検証することは難しい。研究発表会での報告までに再度アンケート結果を照査し、親子間での河川に対する意識の相関関係についての理解を深め、結果について報告したい。合わせて、川の人気向上に資する施策のあり方についても考察を試みたい。